

## 2018 年度事業報告

### (1) 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

#### 【市民、患者向け】

- 1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行  
月刊の協会誌として、患者、家族、糖尿病予備群に対する糖尿病の正しい知識の情報提供と啓発を行う。12冊/年発行した。適正化委員会が執筆した記事を抜き刷りとして啓発に活用した。既刊号の記事を集めて「まるごとわかる糖尿病」を制作し、ライオンズクラブ国際協会と共同発行した。
- 1-2 糖尿病関連書籍の発行  
「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行した。
- 1-3 全国糖尿病週間の実施  
11月12日から18日の一週間を日本糖尿病学会と共催の全国糖尿病週間とし、各都道府県糖尿病協会で「サルコペニア」をテーマとする講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施した。糖尿病週間の標語は、公募により「筋肉量 保ってのぼそう 健康寿命」に決定した。
- 1-4 啓発イベントの実施
  - ・「HbA1c 認知向上運動」(11月11日 大阪府高槻市 235名参加 サノフィ株式会社共催)  
HbA1c・血糖測定、糖尿病展示などを実施
  - ・「第5回チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテスト」(9月23日 仙台市、10月7日 京都市/福岡市は台風で中止) 応募レシピ数: 47校/241件 二次審査: 12校/14件 各会場で審査。優秀レシピを掲載したレシピブックを制作し、各自治体の保健センターを通じて市民に配布した。
  - ・「糖尿病とおいしく生きようプロジェクト~いきいきライフクッキング」(10~11月 全国 22箇所 409名参加 MSD株式会社・株式会社ホームメイドクッキング共催)
  - ・第30回日本医学会総会 2019 中部 疾患啓発イベント(3月31日 愛知県名古屋市 第30回日本医学会総会 2019 中部・ライオンズクラブ国際協会・一般社団法人 日本ライオンズ共催)  
愛知県下を中心とした一般市民に向けて「みんなで知ろうよ 糖尿病という病気」をテーマに講演会を行った。
- 1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施  
日本糖尿病学会・本協会が構成する世界糖尿病デー実行委員会に協力し、223ヶ所のブルーライトアップなど世界糖尿病デーの認知向上と糖尿病知識の普及啓発活動を実施した。
- 1-6 Team Diabetes Japan の運営  
タートルマラソン(10月22日 東京都)に173名、ホノルルマラソン(12月9日 ハワイ)に55名が参加し、糖尿病予防の知識啓発や国際交流を行った。
- 1-7 ウォークラリーの実施  
運動の重要性を周知する目的で、全国41ヶ所で都道府県糖尿病協会、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社共催のウォークラリーを実施した。4,739名が参加した。
- 1-8 KiDS プロジェクトの展開

学校教育に従事する教職員を対象とする出張糖尿病教室「KiDS プロジェクト」をサノフィ株式会社と共催にて実施した。7ヶ所で335名の教職員が参加した。

#### 1-9 就労と治療の両立支援

- ・企業経営者への啓発として、ライオンズクラブ対象の糖尿病セミナーを実施した。5ヶ所で約670名が参加した。
- ・ライオンズクラブ会員を対象に「治療と就労の両立に関する意識調査」を実施した。
- ・産業保健スタッフ教育用に、日糖協 e ラーニングのコンテンツを制作した。

#### 1-10 啓発資材の作成

- ・糖尿病腎症重症化予防の啓発 DVD とウェブサイトを日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、日本イーライリリー株式会社とともに制作した。

### 【医療者向け】

#### 1-12 「DM Ensemble」の発行

医療者を対象とする「糖尿病療養指導のための DM Ensemble」を4冊、療養指導学術集会を特集する増刊号を1冊発行した。購読者数は約3,500名となった。

#### 1-13 登録医・療養指導医・登録歯科医制度の展開

日本糖尿病協会登録医・療養指導医制度並びに登録歯科医制度を推進した。更新要件に e ラーニング受講と DM Ensemble 購読を追加し、学習の利便性を向上させた。登録医：1,607名、療養指導医：2,887名、登録歯科医：3,331名となった。

#### 1-14 日糖協 CDE ネットワークの運営

- ・地域糖尿病療養指導士（CDEL）養成団体支援のため、活動補助金を38都道府県の団体に計26,850,000円支出した。第6回日本糖尿病療養指導学術集会でCDEL団体の情報交換・交流の機会を提供し、43団体が参加した。

#### 1-15 糖尿病カンバセーション・マップ™を活用した療養指導の普及

「糖尿病カンバセーション・マップ™」を使用して療養指導を行うスタッフを育成するトレーニングを13ヶ所で実施。295名が参加した。

#### 1-16 糖尿病療養指導カードシステムを活用した療養指導の普及

糖尿病療養指導カードシステムの普及に向け、講習会を17か所で実施。804名が参加した。カードシステムの周知を目的とするミニレクチャーも9ヶ所で実施した。

#### 1-17 日糖協 e ラーニングの運営

糖尿病教育用 e ラーニングを開設し、登録医・療養指導医・登録歯科医の学習資材として提供した。また、CDEL 団体の認定更新や医薬品・医療機器企業の社員教育としての活用も促進した。

#### 1-18 日本糖尿病療養指導学術集会の開催

第6回日本糖尿病療養指導学術集会を開催した。(7月28,29日 国立京都国際会館 中村慶子会長) 参加：1,691名。「ひとりとチームの経験を力に 共に歩む！」をテーマに多職種によるディスカッションを通じた相互理解を促進した。

#### 1-19 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

登録医・療養指導医・登録歯科医・CDE を対象とした講習会をはじめ、糖尿病に関する適正医療の普及・啓発に向けた地域での活動を支援した。

#### 1-20 医療者・介護支援者の連携強化

高齢者糖尿病医療および医療と介護の連携の実態把握を目的に、全国の登録医・療養指導医対象

のアンケート調査を実施した。

#### 1-21 医療者教育資料の作成・普及

- ・医療スタッフの糖尿病療養指導のスキル向上を目的とする DVD シリーズ全 5 巻を、アステラス製薬株式会社の協賛で作成し、医療施設や地域糖尿病療養指導士の研修等での利用を促した。

### (2) 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

#### 2-1 調査研究

- ・経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究(UNITE Study) 学術誌への投稿に向けて論文を準備した。
- ・インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討-前向き観察研究-(I-UNITE Study) データを回収し解析を行った。
- ・トホグリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究-(AYUMI) 中間解析を実施し日本糖尿病学会で報告した。

#### 2-2 研究助成

臨床的・基礎的な研究を行う若手研究者を対象とする若手研究者助成を 5 件、コメディカルスタッフを対象とするメディカルスタッフ育成研究助成を 2 件採択した。

### (3) 糖尿病の患者及び家族に対する療養支援事業

#### 3-1 糖尿病友の会の活動支援

新規入会者獲得のための資料制作を行った。

#### 3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

- ・糖尿病連携手帳 (2,026,925 冊)、自己管理ノート (1,057,000 冊)、ID カード (64,000 冊)、英文カード (5,000 冊)、自己管理応援シール、連携手帳提出促進立て札を企業協賛により配布した。
- ・市町村が実施する糖尿病腎症重症化予防プログラムにおいて、約 25,600 冊の糖尿病連携手帳が活用された。

#### 3-3 小児 1 型糖尿病対策

- ・小児糖尿病キャンプの主催  
小児 1 型糖尿病患児の医療教育を目的とするキャンプを全国 49 か所で主催し、患児 1,153 名、ボランティアスタッフ 5,305 名が参加した。キャンプを運営する団体に、TOOTH FAIRY (日本財団・日本歯科医師会) の支援金と合わせ、16,000,000 円を補助金として分配した。
- ・サマーキャンプカンファレンスの開催  
小児糖尿病キャンプの標準化とレベルアップを図るため、第 6 回日本糖尿病療養指導学術集会でキャンプ運営に関するスモールグループディスカッションを実施した。
- ・1 型糖尿病に関する移行期医療委員会への協力  
日本小児内分泌学会・日本糖尿病学会・日本糖尿病協会合同の委員会に委員を派遣し、移行期医療に関するチェックリストやコーディネーター制度の検討を行った。

#### 3-4 小児 2 型糖尿病対策

小児糖尿病キャンプでの 2 型患児受入れを推進した。

#### 3-5 インスリンメンター制度

インスリン治療を行う患者にピアサポートを行うインスリンメンターを、8 ヶ所の小児糖尿病キ

キャンプ、9ヶ所の KiDS プロジェクト、3ヶ所の関連学会と市民講座に派遣し、糖尿病啓発を行った。

#### (4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

##### 4-1 IDF、IDF-WPR

11月22-25日に開催された12<sup>th</sup> IDF-WPR Congress/ 10<sup>th</sup> AASD Scientific Meeting (マレーシア クアラルンプール)にて、Council Meeting 出席と各国団体展示コーナーでの活動を行った。

##### 4-2 AASD

運営助成金を支出するとともに、事務局業務、年次学術集会の支援を行った。

#### (5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

##### 5-1 会員増強

都道府県糖尿病協会と連携して、勧誘資材制作等の会員増強対策を実施した。

##### 5-2 都道府県糖尿病協会の運営支援

地域の糖尿病対策の充実および会員増強を目指し、都道府県糖尿病協会に対し58,930,600円の地域活動費を支出した。また、地域ブロック事業として、3ブロックに対し1,496,567円の補助金を支出した。

##### 5-3 サポーター制度の周知

小児糖尿病と国際糖尿病対策の取り組みに賛同して782名のサポーターが新規加入し、合計11,392名となった。

##### 5-4 他団体との連携

###### ・CDEJ および地域の CDE 組織

日本糖尿病療養指導士認定機構と日本糖尿病療養指導学術集会の共催等で連携した。

###### ・日本歯科医師会

日本歯科医師会との連携事業である登録歯科医制度において、eラーニングによる学習機会を拡充することにより、登録歯科医の登録・更新者増を目指した。

###### ・日本糖尿病対策推進会議

幹事団体として12月6日の総会の出席し、日糖協活動を報告した。糖尿病性腎症重症化予防プログラムにおける糖尿病連携手帳の使用を促進した。

###### ・ライオンズクラブ国際協会

合同事業として、糖尿病啓発冊子の発行と糖尿病セミナー共催等の事業を行った。

##### 5-5 災害時危機管理対策

・糖尿病連携手帳を利用した予防啓発資料の作成を検討した。

##### 5-6 広報事業

・プレスリリース8本を配信した。小児糖尿病サマーキャンプが英文紙を含む11紙、災害時サポートマニュアルが22紙に掲載された。

・ホームページ、facebookで糖尿病の正しい知識を発信した。

##### 5-7 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

医薬品、医療機器企業と連携して、血糖自己測定器の保守点検の重要性や検査時のCGM、FGM、

CSII の取り扱い、廃棄物の適正処理に関する啓発資材を作成した。

5-8 企業制作資材の検証

各企業が患者向けに制作する情報提供資材の事前検証を行った。

5-9 表彰事業

アレテウス賞、パラメデス賞、ウィリアム・カレン賞、功労賞、立川俱子賞、療養指導士賞、小児糖尿病関連賞の選考と表彰を行った。

**(6) 業務の適正を確保するために必要な体制の整備**

- ・2018年5月27日の定時総会にて、会費に関する規則を変更した。
- ・2018年9月2日の第3回通常理事会にて、高齢者糖尿病対策委員会を設置した。

2018度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。